# 生寺る

大川小学校 津波裁判を闘った人たち

映画 上映会

2011年3月11日に発生した東日本大震災で、全校児童の7割に相当する74人の児童、10人の教職員が犠牲となった宮城県石巻市大川小学校の津波事故。映画『「生きる」大川小学校 津波裁判を闘った人たち』は、我が子を失った親たちが「真相」を追い求めた延べ10年間の闘いの記録です。この惨事が遺した教訓とは一体何だったのか。ちいさな命が遺してくれた軌跡から、わたし達にできることを考えます。

参加 無料



日時

# 令和7年 7月19日(土) 13:00~15:30

13:00~ 映画『「生きる」大川小学校 津波裁判を闘った人たち』上映会

15:05~ アフタートーク(オンライン)

出演:寺田和弘監督、只野英昭さん(原告遺族、本作出演者)

会 場 青森中央学院大学 学術交流会館2階 921講義室

対象一一般、教育関係者、高校生、大学生

定 員 100名

申込み方法

MS FORMSから申込みしてください。 https://forms.office.com/r/f7hGTb5814



#### 問合せ先

青森中央学院大学 事務局公開講座担当 TEL 017-728-0131 Eメール koukaikouza@aomoricgu.ac.jp

青森市産官学連携プラットフォーム 運営/青森中央学院大学 大泉研究室 後援/NPO法人青森県防災士会







#### 全国民必見のドキュメンタリーです

——**尾木直樹**(教育評論家/法政大学名誉教授)

生きること。忘れてはならないこと。私達にできること。 震災から12年が経った今も強いメッセージが伝わってきます。

——竹下景子(俳優)

自らの時代の不条理との関わり方を強く考えさせられる、 そんな力を持った作品です。

——提幸彦(映画監督)



## 「あの日、何があったのか」「事実と理由が知りたい」 親たちの強い思いが、10年にわたる唯一無二の記録となった

2011年3月11日に起こった東日本大震災で、宮城県石巻市の大川小学校は津波にのまれ、全校児童の7割に相当する74人の児童(うち4人は未だ行方不明)と10人の教職員が亡くなった。地震発生から津波到達までには約51分、ラジオや行政の防災無線で情報は学校側にも伝わりスクールバスも待機していた。にもかかわらず、学校で唯一多数の犠牲者を出した。この惨事を引き起こした事実・理由を知りたいという親たちの切なる願いに対し、行政の対応には誠意が感じられず、その説明に嘘や隠ぺいがあると感じた一部の親たちは真実を求め、石巻市と宮城県に対して国家賠償を求めて提訴に至る。彼らは震災直後から、そして裁判が始まってからも記録を撮り続け、のべ10年にわたる映像が貴重な記録として残ることになっていく――

### 弁護団はたった2人の弁護士 親たちが "わが子の代理人" となり 裁判史上、画期的な判決に――

この裁判の代理人を務めたのは吉岡和弘、齋藤雅弘の両弁護士。

わずか2人の弁護団で、原告となった親たちは「金がほしいのか」といわれのない誹謗中傷も浴びせられる中、事実上の代理人弁護士となって証拠集めに奔走する。彼らにとって裁判で最も辛かったのはわが子の命に値段をつけなければならないことだった。それを乗り越え5年にわたる裁判で「画期的」と言われた判決を導く。

親たちが撮り続けた膨大な闘いの記録を寺田和弘監督が丁寧に構成・編集し、独自 の追加撮影もあわせて、後世に残すべき作品として作り上げた。



#### [大川小学校311当日の行動]

14時 46分 地震発生

50分ごろ 校庭に移動し、そのまま校庭に待機

52分 大津波警報 防災行政無線

(予想津波高6m)

15時 10分ごろ 大津波警報 防災行政無線(2回目)

20分ごろ 消防車「高台避難」呼び掛け

大川小学校前を通過

28分ごろ 石巻市広報車

「追波湾の松林を津波が越えた」と

「高台避難」を呼び掛け、 大川小学校前を通過

35分ごろ 「三角地帯」への移動を開始

37分ごろ 大川小に津波が到達



監督 | 寺田和弘 プロデューサー: 松本裕子 撮影: 藤田和也、山口正芳 音効: 宮本陽一 編集: 加藤裕也 MA: 高梨智史 協力: 大川小学校児童津波被災遺族原告団、吉岡和弘、齋藤雅弘 主題歌: 「駆けて来てよ」(歌: 廣瀬奏) バリアフリー版制作: NPO メディア・アクセス・サポートセンター 助成: ★・文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会後援: 宮城県 製作: (株) パオネットワーク 宣伝美術: 追川恵子 配給: きろくびと 2022年 / 日本 / 16:9/124分 ⑥2022 PAO NETWORK INC. **2022年文部科学省選定作品 東京都推奨映画** (条) ®